

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善方策	学校関係者評価書	学校関係者評価	
確かな学力	A	問題を見出し、解決するための思考力・判断力・表現力等を育成し、生涯にわたって学ぶ力を育てる	「理科する心」を育てる理科教育の推進 問題解決に向けて意欲的に思考する授業づくり	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり	・新学習指導要領に示された理科教育の目標および内容の理解。 ・問題解決に向けて意欲的に試行する授業づくりに関する授業研究	・教員対象理科アンケート「理科がおもしろい」肯定評価80%以上。 ・校内研修、授業研究の実施状況。	・理科実験観察講座を高知大学との連携で定期実施。 ・先進校視察研修、大学からの講師招聘研修会を実施し、レベルアップを図る。	・教員肯定評価100%で、考え、解る授業の成果が見られる。 ・「考えながら学習」が90%まで向上している。 ・家庭学習定着率も87%と向上している。 ・子どもたちのノートを見ても、分かりやすく工夫しており、わくわく感を感じる。 ・自主学習ノート、3年生以上の100%は素晴らしい。 ・「理科する心」を育てる理科教育の授業研究が進んでいるので、よい傾向だと思う。 ・学校内の日々の教育、学習指導は、校長先生以下、教職員がいろいろな企画や工夫を考案され、大変努力していると思う。 ・児童が自分の考えや思いをまわりの関係者に上手に伝えられるようになるために、学校教育の流れを工夫や研究をして取り組みができるように検討してほしいと思う。	A	
				子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など)	・問題解決学習の充実。 ・対話型授業の展開。 ・「気づき」「発見」をもとに言語活動(思考活動)を保障した授業実践	・意欲的な思考の姿チェックシートの数の向上。 ・「気づき」「発見」ノートの内容 ・単元末テスト得点率90%以上	・思考カルーブリック評価を試行実施。 ・「考えながら学習」が72%→95%に向上。 ・単元テスト得点率ほぼ100%に近づいている。 ・ノートコンテスト実施。			・単元末思考カルーブリック評価の実施と分析。 ・思考力問題の作成。 ・単元導入時のコンセプトマップの活用。
				学校全体で予習・復習(宿題)の質と量の高める取組	・自主学習ノートの活用。 ・授業と連動した課題設定の工夫。 ・家庭読書をふくめた家庭学習目標時間の達成。(親子読書・生活リズムチェックカード)	・自主学習ノート活用率80%以上 ・家庭学習目標時間達成率全校平均80%以上	・自主学習ノート活用率3年以上でほぼ100%に達している。 ・家庭学習定着率全校平均87%(昨年より5ポイントアップ)			・家庭読書を含めた家庭学習の課題設定の工夫。 ・「親子読書」「生活リズムチェック」の継続実施。
豊かな心	B	他者や社会、自然環境と共に生きる豊かな心を育てる	「感謝」と「協力」の心育て 道徳授業の充実 豊かな読書活動の推進 良さを認め合う関係づくり	・朝の読書と親子読書の充実(図書館利用指導) ・楽しい図書館づくりと読書量の向上(読書目標冊数の設定) ・学校行事や縦割り清掃活動で「感謝」と「協力」の実践的態度を育てる。 ・「スマイル隊」ありがとうメッセージに日々全校で取り組む。 ・家族への「ありがとうの手紙」 ・道徳授業の公開(道徳参観日・親子映画会)	・貸し出しカード読書傾向調べの状況。 ・毎月読書目標冊数の達成率80%以上。 ・親子読書カードの返却率95%以上。 ・「メッセージ」週平均5以上。 ・道徳アンケート「自己肯定感」の向上。 ・道徳参観日参加率70%	・図書支援員の配置により読書環境が改善され、図書館利用児童が増えた。 ・読書目標達成率全校平均55%にとどまった。 ・親子読書返却率95%とほぼ定着した。 ・「メッセージ」244通。 ・自己肯定感7月比較+6、昨年比較+2伸び。	・本年度実施できなかった「親子映画会」実現し、感性・情操育成面を工夫する。 ・文化的な学校行事等を検討し感動体験を共有する。	・自己肯定力向上のための「ありがとうメッセージ」も244通と多く、その内容の一部を全校に放送し、自己肯定力の向上につながり、「ありがとう」の輪も広がり、素晴らしい取り組みである。 ・図書の利用率が向上している。図書館環境は、明るく整理整頓されており、すぐ改善されている。読書冊数達成率の目標80%が55%と低く、各児童の読書意欲が図れるようなシステム導入などの取り組みが求められる。 ・豊かな心を育むのに、感謝の気持ちを忘れないことはとても大切であり、家族への「ありがとう」の手紙やメッセージを伝える「スマイル隊」の実施は、家族の絆を高め、豊かな心を育む素晴らしい取り組みだと思ふ。	B	
				・低・中・高学年合同授業による技能向上と運動意欲づくり。 ・運動量を保障した授業実践、チャレンジカードの活用。 ・体力向上を目指した学校行事等の見直し。 ・外遊びの奨励(20分休み・放課後時間の保障・集団遊びやゲーム拡大) ・生活リズムチェックカードの活用。	・体育アンケート5項目(運動認識・学び方)肯定評価の向上(学期ごと年3回) ・20分休みの外遊び率75%以上。 ・生活リズムチェックカード【運動時間】全校平均80%以上	・体育アンケート結果は良好で体育好きが増えた。 ・学校評価アンケートの児童の要望にも「体育時間を増やしてほしい」が多くみられた。 ・学級の外遊び係が活躍し、業間、昼休み、放課後ともに外遊びが広がった。 ・運動時間達成率全校平均82%で後半は低学年の伸びがみられた。	・体力テストを一学期と年度末の2回全校で実施することで、体力向上を検証できるように取り組む。 ・本年度の日課を継続し、学校での外遊びの時間を保障していく。 ・保護者の健康体力向上への関心を高める。			
健全な体	B	心身共に健康で、たくましく、安全に留意して意欲的に運動する力を育てる	体育・体育的活動の充実 運動習慣の定着	・低・中・高学年合同授業による技能向上と運動意欲づくり。 ・運動量を保障した授業実践、チャレンジカードの活用。 ・体力向上を目指した学校行事等の見直し。 ・外遊びの奨励(20分休み・放課後時間の保障・集団遊びやゲーム拡大) ・生活リズムチェックカードの活用。	・体育アンケート5項目(運動認識・学び方)肯定評価の向上(学期ごと年3回) ・20分休みの外遊び率75%以上。 ・生活リズムチェックカード【運動時間】全校平均80%以上	・体育アンケート結果は良好で体育好きが増えた。 ・学校評価アンケートの児童の要望にも「体育時間を増やしてほしい」が多くみられた。 ・学級の外遊び係が活躍し、業間、昼休み、放課後ともに外遊びが広がった。 ・運動時間達成率全校平均82%で後半は低学年の伸びがみられた。	・体力テストを一学期と年度末の2回全校で実施することで、体力向上を検証できるように取り組む。 ・本年度の日課を継続し、学校での外遊びの時間を保障していく。 ・保護者の健康体力向上への関心を高める。	・食育も大切だと思う。 ・上級生が中心となって、運動場でサッカーをしている姿をよく見る。集団で一つのスポーツをすることで、お互いを認め合い、励まし合い、豊かな心と健やかな身体を育てていっていると思う。 ・20分休みの外遊びという企画がよいと思う。それに伴い、「体育の時間を増やしてほしい。」という要望も多く見られたことは、体力向上のためによいと思う。	B	
				・学級通信、学校だより、学校だより地域版、PTA広報等の定期発行を効果的に活用し、課題改善への協働的な風土を育てる。 ・工科大との連携を学校サポーターの有効活用や理科教育やPTA活動等に拡大する。 ・親子読書、親子映画会、体験的な授業参観を実施するとともに定期的な懇談会で学校課題について話し合い、協働の意識を高める。 ・「若あゆ会」「運動会」「ふれ愛かたじ」での交流を密にする。	・定期的な情報発信の状況。 ・工科大との連携の拡大状況。 ・学校評価保護者アンケート「情報提供」肯定評価90% ・学校評価保護者アンケート「将来の夢や目標」肯定評価70%以上。 ・「若あゆ会」保護者参加率の向上。	・学校だより16、地域だより7、1年78、2年43、3年62、4年45 5年38、6年22発行。 ・工科大出前授業5・6年で実施等、拡大した。 ・「若あゆ会」参加は昨年並であったが、「ふれ愛かたじ」は盛況で佐岡小地域・保護者との交流もできた。	・参観後の懇談会テーマを事前に知らせ、参加を募るとともに懇談会での情報提供を工夫する。 ・大学施設の活用を広げる。 ・「若あゆ会」「ふれ愛かたじ」を地域に定着させる。			
保護者地域との連携	A	信頼される開かれた学校づくり	保護者や地域とのつながりを確立する 学校教育への関心を高め、健全育成、学校の課題解決への協働的・支持的風土を構築する	・学級通信、学校だより、学校だより地域版、PTA広報等の定期発行を効果的に活用し、課題改善への協働的な風土を育てる。 ・工科大との連携を学校サポーターの有効活用や理科教育やPTA活動等に拡大する。 ・親子読書、親子映画会、体験的な授業参観を実施するとともに定期的な懇談会で学校課題について話し合い、協働の意識を高める。 ・「若あゆ会」「運動会」「ふれ愛かたじ」での交流を密にする。	・定期的な情報発信の状況。 ・工科大との連携の拡大状況。 ・学校評価保護者アンケート「情報提供」肯定評価90% ・学校評価保護者アンケート「将来の夢や目標」肯定評価70%以上。 ・「若あゆ会」保護者参加率の向上。	・学校だより16、地域だより7、1年78、2年43、3年62、4年45 5年38、6年22発行。 ・工科大出前授業5・6年で実施等、拡大した。 ・「若あゆ会」参加は昨年並であったが、「ふれ愛かたじ」は盛況で佐岡小地域・保護者との交流もできた。	・参観後の懇談会テーマを事前に知らせ、参加を募るとともに懇談会での情報提供を工夫する。 ・大学施設の活用を広げる。 ・「若あゆ会」「ふれ愛かたじ」を地域に定着させる。	・学校だよりも、毎月、民生委員と連携し、校区内全世帯回覧を行っている。また、各クラスの学級だよりも多く発行されている。 ・高知工科大学との連携もよく図られ、パソコン、読み聞かせ、天体観測等に生かされている。 ・佐岡祭り、片地小祭りなどでは、佐岡地区や農協婦人会等との連携もよく図られている。 ・稲やサツマイモ栽培、野球教室等、保護者や地域との連携により充実した取り組みがされている。 ・要支援児童については、年間3回、民生・児童委員や主任児童委員との連携会議を行い、連携した支援を行っている。 ・「ふれ愛かたじ」の盛況さや「持久力走」での地域の協力などを見ても、地域との関わりは深く、地域に支えられている姿がよく分かる。「ふれ愛かたじ」「若あゆ会」は、交流も深まり、継続してほし	A	
				・保護者や地域とともに学校を中心とした防災学習を実施する。 ・日常の学校生活のなかでの安全チェックに努め、上履きの使用やハンカチ所持など当たり前のことが当たり前にできる力をつける。 ・定期的な避難訓練の実施とその振り返りにより避難経路や役割分担に柔軟に取り組む力をつける。 ・定期外の避難訓練の実施。	・防災学習の実施状況。 ・通知表「忘れ物をしない」「整理整頓ができる」ががんばろう評価の減少。 ・訓練の振り返り評価の向上	・緊急地震速報による地震・津波避難訓練と気象庁の出前防災学習を実施し、児童の振り返りも良好であった。 ・想定外に対応した工科大3階への避難を実施した。 ・通知表「忘れ物をしない」「整理整頓ができる」ががんばろう評価は昨年度よりも減少した。	・地域の実情にあわせた防災教育を進める。 ・保護者や地域とともに防災学習を実施し、避難時の実践力をつける。 ・身近な防災用具の整備を進める。			
安全教育	A	自らの命を自ら守る力の育成	安全に関する知識をもとに常に危機管理意識を保持し、発達段階に応じた危機回避能力を身につける	・保護者や地域とともに学校を中心とした防災学習を実施する。 ・日常の学校生活のなかでの安全チェックに努め、上履きの使用やハンカチ所持など当たり前のことが当たり前にできる力をつける。 ・定期的な避難訓練の実施とその振り返りにより避難経路や役割分担に柔軟に取り組む力をつける。 ・定期外の避難訓練の実施。	・防災学習の実施状況。 ・通知表「忘れ物をしない」「整理整頓ができる」ががんばろう評価の減少。 ・訓練の振り返り評価の向上	・緊急地震速報による地震・津波避難訓練と気象庁の出前防災学習を実施し、児童の振り返りも良好であった。 ・想定外に対応した工科大3階への避難を実施した。 ・通知表「忘れ物をしない」「整理整頓ができる」ががんばろう評価は昨年度よりも減少した。	・地域の実情にあわせた防災教育を進める。 ・保護者や地域とともに防災学習を実施し、避難時の実践力をつける。 ・身近な防災用具の整備を進める。	・緊急避難訓練を気象庁の出前授業で実施するなど、意欲的に取り組んでいる。 ・児童への安全教育にも定着が見られる。 ・一次避難だけでなく、想定外に対応した二次避難訓練も行ったことは、危険回避能力を身につける面としても素晴らしい取り組みだと思ふ。 ・放課後、鏡野公園横の水路に潜って遊んでいる姿も見られ、家庭での注意も必要。 ・工科大への避難訓練など、地域との連携が取れたことは良い。 ・自主防災組織が工科大等、広域連携が必要だと思うので、今後の地震、火災、防災、防犯も踏まえて発生しそうな災害等を想定した訓練ができるようになればと思う。	A	